

## 2017 年度聖書の集い（第 2 回）

2017 年 6 月 7 日

桃山基督教会

<http://momoyama.hannari.com/>

古本 靖久

- 1、聖歌 344 番 「空の鳥は 小さくても」
- 2、お祈り
- 3、聖書 マタイによる福音書 6 章 25～34 節  
(新約聖書 10 ページ)
- 4、今日の内容

### キリスト教のおまつり「② 花の日」

今月のテーマは「花の日」です。あまり聞きなれない言葉だと思います。実際、桃山幼稚園や桃山基督教会では、花の日をお祝いする習慣はありません。しかし平安女学院中学・高等学校や世光保育園など、花の日礼拝をおこなうところも多くあります。

今日はこの花の日を通して、キリスト教がなにを大切にしてきたかをご一緒に考えていきたいと思います。

#### ① 「花の日」の起源

花の日という習慣が始まったのは、1850 年ごろです。アメリカ合衆国の牧師によっておこなわれた特別礼拝が最初だといわれています。

その礼拝は、神さまに感謝しましょうという目的の中でおこなわれました。小さな花が美しく咲く様子を見て、「神さまってなんて素晴らしいんだろう」ということに気づいて欲しいという願いがあったようです。

この季節、森や広場には様々な種類の花が咲いています。園庭の花壇や周りを見上げてみても、葉は青々と茂り、花が咲き誇る。その様子を見たときに、神さまが与えて下さった素晴らしい世界に感謝するのです。

そしてこの「花の日」を祝う動きは、全世界へと広がっていきます。

## ② 花の日には何をするのか

花の日の礼拝をするときには、みんなで少しずつお花を持っていくことが多いようです。「どんな花を持っていけばいいのだろう？」という疑問も浮かぶかもしれませんが、基本的にどんな種類の花でも OK です。



お花でいっぱいになった礼拝堂で、神さまにみんなで「ありがとう」を伝えます。お祈りや賛美をすることで、神さまから頂いたたくさんのものに気づくのです。

そして礼拝のあと、集まったお花を花束などにして、いつもお世話になっている人たちに配ります。わたしが幼稚園の頃には、交番、消防署、郵便局、区役所などに配って回りました。また老人福祉施設や駅などに配るところもあるそうです。

## ③ 花の日に大事にしたいこと

この花の日に、わたしたちは二つのことを感じていきたいと思います。一つは、神さまからわたしたちはたくさんのものを頂いているということ。きれいな花だけではありません。動物たち、自然、おいしい食べ物、わたしたちの周りにあるものは、自分の力だけで得たものではないということ、その一方的なお恵みに感謝することを覚えておきたいと思います。

そして二つ目は、神さまから頂いたお恵みを、周りの人たちと分け合うということです。花の日礼拝でお花を周りの人たちに配るように、また桃山幼稚園でもおこなっている収穫感謝礼拝のときに、野菜や果物を配るように、与えられたものをみんなで分かち合うのです。

キリスト教はプレゼントをすることがとても多いです。花の日だけではなく、母の日も、バレンタインデーも、クリスマスも、みんなそうです。

喜びを分かち合うために、お互いにプレゼントしあう、そのときに「いつもありがとう」と言い合う。すべての人が、いつもそのようにできていると、きっと世界からは争いはなくなるでしょう。

花の日を通して、子どもたちとお互いに、「うれしいね、ありがとう」と言ってみてはどうでしょうか。

＜桃山基督教会での礼拝のご案内：どなたでもお気軽にどうぞ＞

日曜学校（子どもの礼拝）： 毎週日曜日 午前 9 時 30 分から

日曜礼拝： 毎週日曜日 午前 10 時 30 分から